最終報告書

表 題:アゾイック CC-2 の細菌を用いる復帰突然変異試験

試験番号: SR05369

株式会社 化合物安全性研究所

目 次

	頁
表紙 · · · · · ·	
目次	4
	7法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	6位:
Tables	
Table 1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535,
	TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvrA without metabolic activation (dose-finding test) (SR05369) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Table 2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvrA with metabolic activation
m11.4	(dose-finding test) (SR05369) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
Table 3	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535,
	TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvrA without metabolic activation (main test) (SR05369) · · · · · · 23
T-1.1- A	
Table 4	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535,
	TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvrA with metabolic activation (main test) (SR05369)
	19KUJJOJA

Figures	
Figure 1-1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100 without
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)·······25
Figure 1-2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100 with
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)······26
Figure 2-1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1535 without
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)····································
Figure 2-2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1535 with
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)······28
Figure 3-1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Escherichia coli WP2uvrA without metabolic
	activation (dose-response curves) (SR05369) · · · · · · · 29
Figure 3-2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Escherichia coli WP2uvrA with metabolic
	activation (dose-response curves) (SR05369) · · · · · · · · 30
Figure 4-1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA98 without
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)· · · · · · · · 31
Figure 4-2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA98 with
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)······32
Figure 5-1	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1537 without
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)· · · · · · · 33
Figure 5-2	Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1537 with
	metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)······34

要約

アゾイック CC-2 の細菌における遺伝子突然変異誘発性を検討する目的で、Salmonella typhimurium TA100、TA1535、TA98、TA1537 および Escherichia coli WP2uvrA を用いる復帰突然変異試験を実施した。試験は代謝活性化系 S9 mix の非存在下(直接法)ならびに存在下(代謝活性化法)において、プレインキュベーション法で実施した。

用量設定試験では、直接法および代謝活性化法ともに被験物質の最高用量を 5000 μg/plate とし、以下公比約 3 で低下させた計 7 用量(5~5000 μg/plate)の試験群を設定した。試験の結果、各試験系列のいずれの菌株においても、被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値は陰性対照群の値の 2 倍未満であり、用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加もみられなかった。被験物質の析出が、各菌株の 1500 μg/plate 以上の用量で観察された。生育阻害は、被験物質の析出により判定が困難であった各菌株の 1500 μg/plate 以上の用量を除き観察されなかった。

本試験では、直接法および代謝活性化法ともに被験物質の最高用量を 2000 μ g/plate とし、以下公比 2 で低下させた計 6 用量(62.5~2000 μ g/plate)の試験群を設定した。試験の結果、各試験系列のいずれの菌株においても、被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値は陰性対照群の値の 2 倍未満であり、用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加もみられなかった。被験物質の析出が、1000 μ g/plate 以上の用量において観察された。生育阻害は、被験物質の析出により判定が困難であった 2000 μ g/plate の用量を除き、観察されなかった。

用量設定試験および本試験のいずれにおいても、各菌株の陰性対照群の復帰変異コロニー数の平均値は全て試験施設の背景データに基づく管理値の範囲内であった。また、各菌株の陽性対照群の復帰変異コロニー数の平均値は、それぞれにおける陰性対照群の値の 2 倍以上の明確な増加を示した。これらの結果から、各菌株が変異原物質に対し適切な感度を有していたことが確認された。

以上のことから、アゾイック CC-2 は、当該試験条件下において試験菌株に対する遺伝子突然変異誘発性を有しないと判断した。

緒言

アゾイック CC-2 の細菌における遺伝子突然変異誘発性を、Salmonella typhimurium TA100、TA1535、TA98、TA1537 および Escherichia coli WP2uvrA を用いる復帰突然変異試験により検討した。試験は、代謝活性化系 S9 mix の非存在下(直接法)ならびに存在下(代謝活性化法)において、プレインキュベーション法で実施した。

材料および方法

1. 被験物質

名称 : アゾイック CC-2

別名 : ナフトール AS

3-ヒドロキシ-2-ナフトアニリド

英名 : Azoic CC-2

3-hydroxy-2-naphthanilide

CAS No. : 92-77-3

官報公示整理番号 : 5-2272

示性式(構造式) : C₁₀H₆(OH) CONHC₆H₅

OH OH

分子式 : C₁₇H₁₃NO₂

分子量: 263.29 (分子式より算出)

物理化学的性質 : 外観 ; 淡灰色~淡黄灰色の粉末

臭い ;無臭 沸点 ;分解

融点 ; 243-244℃

溶解性:水に不溶。クロロホルム、ジエチルエーテル、ベンゼ

ンに微溶、エタノールに不溶。水酸化ナトリウム溶液

に可溶。[試験施設において、ジメチルスルホキシド に対する溶解性を事前確認した。確認内容を、2.被 験物質の調製(10頁)に記載した。]

ピリジン溶状:ほとんど澄明

純度

: 96.6% (Appendix 1)

乾燥減量(105℃);0.5%以下

強熱残分(硫酸塩);1.0%以下

不純物の名称およびその濃度:不明(データなし)

入手量

:25 g (関連試験と共通)

安定性

:実験終了後に、使用した被験物質の純度に関する分析成績を入

手し被験物質の安定性について確認した(Appendix 2)。

保存場所

: 検体保存室および変異原性試験室

保存条件

: 密栓、遮光、冷所(実測範囲:1~8℃)

保存期間

: 2006年6月14日(受入)~2007年2月28日(最終使用日)

取扱上の注意

:皮膚に付けたり、粉塵を吸入しないように適切な保護具を着用

した。

残余被験物質の処置 :試験操作終了後、一部を分析のため製造者へ送付した。最終的

な残余被験物質は、焼却処分するために、産業廃棄物として回

収した。

2. 被験物質の調製

試験施設における溶解性確認において、被験物質は水に不溶で、ジメチルスルホキ シドに 50 mg/mL の濃度で溶解することが確認されたことから(100 mg/mL の濃度では懸 濁状態であった)、ジメチルスルホキシドを調製溶媒に選択した。

被験物質を精秤し、ジメチルスルホキシドを用いて溶解ならびに希釈し、所定の濃 度に調製した。

用量設定試験では、被験物質を精秤し、ジメチルスルホキシドを用いて溶解し 50 mg/mL 調製液を調製した。さらに、50 mg/mL 調製液からジメチルスルホキシドを用い て公比約3で段階希釈し15、5、1.5、0.5、0.15および0.05 mg/mL調製液を調製した。

本試験では、20 mg/mL 調製液を調製し、20 mg/mL 調製液からジメチルスルホキシド を用いて公比2で段階希釈し10、5、2.5、1.25 および0.625 mg/mL調製液を調製した。

調製液の安定性では、用量設定試験および本試験ともに、被験物質調製時の目視確認において媒体との反応性(変色、発熱、発泡等)はみられなかった。

被験物質調製液は、用量設定試験および本試験ともに調製後 2.3 時間以内に試験に使用した。

調製液はクリーンベンチ内で用時に調製し、調製に際してはマスクおよび手袋を着用し、吸引したり皮膚に触れないようにして取扱った。残余調製液は、焼却処分するために、産業廃棄物として回収した。

3. 陰性対照物質

陰性対照物質として、被験物質の調製媒体であるジメチルスルホキシド(ロット番号 TA026、株式会社同仁化学研究所)を、モレキュラーシーブを用いて脱水処理を行い、 原液のまま使用した。

4. 陽性対照物質およびその調製

陽性対照物質として、次表の既知変異原物質を使用した。これらの陽性対照物質は、 遮光および冷所(2~8℃設定)で保存した。

陽性対照物質は、含量補正をせずにそれぞれ次表の濃度に調製し、分注後-20℃以下で凍結保存したものを解凍後 2.0 時間以内に使用した。調製液は、調製日より 3 ヵ月以内(使用期限:調製後1年)に使用した。

陽性対照物質	調製濃度	調製媒体
2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル) アクリルアミド(含量 98.3%) ロット番号 SDJ4376 和光純薬工業株式会社	0.1および 1 μg/mL	ジメチルスルホキシド ロット番号 TA026 株式会社同仁化学研究所
アジ化ナトリウム(純度 99.8%) ロット番号 SDH6348 和光純薬工業株式会社	5 μg/mL	日本薬局方注射用水 ロット番号 5D73 株式会社大塚製薬工場
9-アミノアクリジン塩酸塩一水和物 (含量 98.8%) ロット番号 03024JR Aldrich Chemical Company, Inc.	800 μg/mL	ジメチルスルホキシド ロット番号 TA026 株式会社同仁化学研究所
2-アミノアントラセン (含量 97.4%) ロット番号 TCG4316 和光純薬工業株式会社	5、10、20 および 100 μg/mL	ジメチルスルホキシド ロット番号 TA026 株式会社同仁化学研究所

5. 試験菌株

試験には、Salmonella typhimurium TA100、TA1535、TA98、TA1537 ならびに Escherichia coli WP2uvrA を使用した。これらの菌株は、1991年10月18日に国立衛生試験所(現 国立医薬品食品衛生研究所)より分与された。また、これらの菌株は遺伝毒性を有する化学物質の検索に適した細菌として広く受け入れられていることから選択した。

各菌株は、培養液 8 mL に対しジメチルスルホキシド(ロット番号 SL045、株式会社同仁化学研究所) 0.7 mL を加え、試験チューブに分注後-80℃以下で凍結保存した。供試菌株と同時に凍結保存した菌株を用いて、菌株の特性(アミノ酸要求性、膜変異 rfa 特性、紫外線感受性および薬剤耐性) ならびに陰性対照物質および陽性対照物質に対する感受性の検査を行い、これらの特性が正常に保持されていることが確認された菌株を試験に使用した。

6. 培地

(1) 前培養用培地

前培養用のニュートリエントブロス培地として、ニュートリエントブロス(OXOID NUTRIENT BROTH No. 2、ロット番号 298714、OXOID LTD.)を日本薬局方注射用水(ロット番号 6C97 または 6J92、株式会社大塚製薬工場)を用いて 25 g/L に調製した。 *S. typhimurium* TA98 および TA100 の培地には、使用時にアンピシリンナトリウム(ロット番号 M3F9025、ナカライテスク株式会社)を 25 μg/mL となるように添加した。

(2) 試験用培地(最少グルコース寒天培地)

試験用培地として使用した最少グルコース寒天培地(バイタルメディア AMT-0 培地、ロット番号 DZL7C501 (2006 年 12 月 5 日製造)極東製薬工業株式会社)1000 mL 中の組成は次表の通りである。

試験用培地 1000 mL 中の組成		
硫酸マグネシウム・7 水塩	0. 2	g
クエン酸・1 水塩	2.0	g
リン酸二カリウム・無水塩	10.0	g
リン酸一アンモニウム	1. 92	g
水酸化ナトリウム	0. 66	g
ブドウ糖	20.0	g
寒天末[0X0ID AGAR No.1、ロット番号 946458-02]	15. 0	g

(3) 重層用培地

次表の組成のソフトアガーおよびアミノ酸溶液を蒸留水を用いて調製し、使用時に (A): (B)=10:1 の容量比で混合した。 S. typhimuriumには L-ヒスチジンおよび D-ビオチンのアミノ酸溶液を、E. coliには L-トリプトファンのアミノ酸溶液を使用した。

重層用培地の組成	
(A) ソフトアガー	
Bacto TM Agar	0.6 %
(ロット番号 5123150、Becton,Dickinson and Company)	
塩化ナトリウム	0.5 %
(ロット番号 611F1714、関東化学株式会社)	
(B) アミノ酸溶液	
L-ヒスチジンおよび D-ビオチン溶液	各々 0.5 mmol/L
(L-ヒスチジン、ロット番号 ASP6644、和光純薬工業株式会社)	
(D-ビオチン、ロット番号 LTM1077、和光純薬工業株式会社)	
または	
L-トリプトファン溶液	0.5 mmol/L
(L-トリプトファン、ロット番号 ASG2385、和光純薬工業株式会社)	

7. S9 mix

S9 mix は、S9(ロット番号 RAA-554、2007 年 2 月 2 日製造、キッコーマン株式会社)、S9 mix 用 Cofactor (Cofactor-I、ロット番号 999604、オリエンタル酵母工業株式会社) および日本薬局方注射用水(ロット番号 5L88、株式会社大塚製薬工場)を用いて用時調製した。

S9 は、購入後-80℃以下で保存し、製造日より 1 ヵ月以内(使用期限:製造後 6 ヵ月)に使用した。この S9 は、フェノバルビタールおよび 5, 6-ベンゾフラボンの腹腔内投与で酵素誘導した S1c:SD 系ラット(雄、7 週齢)の肝ホモジネートより調製された。

S9 mix 1 mL 中の組成は次表の通りである。

S9 mix 1 mL中の組成		
S9	0. 1	mL
塩化マグネシウム	8	μmol
塩化カリウム	33	μmol
グルコースー6-リン酸	5	μmol
還元型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸(NADPH)	4	μmol
還元型ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド(NADH)	4	μmol
リン酸ナトリウム緩衝液、pH 7.4	100	μmol

8. 試験群

(1) 用量設定試験

各菌株につき代謝活性化系 S9 mix の非存在下(直接法)および存在下(代謝活性化法)で試験を実施した。

直接法および代謝活性化法ともに被験物質の最高用量を 5000 μ g/plate とし、以下公比約 3 で用量を低下させた計 7 用量の試験群 (5000、1500、500、150、50、15 および 5 μ g/plate)を設定した。

(2) 本試験

各菌株につき直接法および代謝活性化法で試験を実施した。

用量設定試験の結果、直接法および代謝活性化法いずれにおいても、1500 μ g/plate 以上の用量で、被験物質の析出によりプレートでの菌株の生育阻害の観察が困難であったことから、本試験では、被験物質の最高用量を 2000 μ g/plate とし、以下公比 2 で低下させた計 6 用量 (2000、1000、500、250、125 および 62.5 μ g/plate)を設定した。

(3) 陰性対照群および陽性対照群

用量設定試験および本試験いずれにおいても、試験系列毎に陰性対照群(ジメチルスルホキシド)および次表の陽性対照群を設定した。

供試菌株	陽性対照物質(用量:μg/plate)				
	直	接法	代謝活	性化法	
S. typhimurium TA100	AF-2	(0.01)	2-AA	(1)	
S. typhimurium TA1535	NaN ₃	(0.5)	2-AA	(2)	
<i>E. coli</i> WP2 <i>uvr</i> A	AF-2	(0.01)	2-AA	(10)	
S. typhimurium TA98	AF-2	(0.1)	2-AA	(0.5)	
S. typhimurium TA1537	9-AA	(80)	2-AA	(2)	

AF-2:2-(2-フリル)-3-(5-ニトロ-2-フリル)アクリルアミド

NaN₃:アジ化ナトリウム、 9-AA:9-アミノアクリジン塩酸塩一水和物

2-AA: 2-アミノアントラセン

(4) プレート数およびプレートの識別

プレート数は、各試験群ともに3枚とした。

プレートには、識別のための試験番号および試験群を記載したラベルを貼付した。

9. 試験方法

(1) 試験菌株の前培養

容量約 40 mL の L 字管に前培養用培地 (ニュートリエントブロス培地) 12 mL を入れ、解凍した保存菌を 12 μL 接種し、37℃、振幅 40 mm、振盪速度 100 回/分に設定した振盪恒温槽 (Personal-11・EX、タイテック株式会社) で 10 時間の往復振盪培養を行った。なお、菌株の接種後、L 字管は振盪培養開始まで冷却 (氷冷) した。培養終了時に、得られた菌培養液の 0D_{660nm} を比色計 (mini photo 518、タイテック株式会社) で測定し、各菌株の生菌数 - 0D_{660nm} 相関式より生菌数を算出した。生菌数が 1×10⁹ cells/mL より多く、十分に菌が生育していることが確認された菌培養液を試験に使用した。

各培養液の生菌数(計算値)は次表の通りであった。

	生菌数(計算值)(×10 ⁹ cells/mL)			
供試菌株	用量設定試験	本試験		
S. typhimurium TA100	2. 92	3. 49		
S. typhimurium TA1535	3. 56	4. 18		
<i>S. typhimurium</i> TA98	2. 96	3. 21		
S. typhimurium TA1537	1. 92	2. 14		
E. coli WP2uvrA	4, 50	4.85		

(2) 被験物質および対照物質調製液の処理

被験物質および対照物質調製液の処理を、プレインキュベーション法で行った。

蓋付きのポリエチレン製チューブ(5 mL 容量)を使用して、被験物質あるいは対照物質調製液 0.1 mL を、直接法の場合は 0.1 mol/L Na-リン酸緩衝液 (pH7.4) 0.5 mL と、代謝活性化法の場合は S9 mix 0.5 mL と、それぞれ混合した。その混合液に菌培養液 0.1 mL を加え、37 $^{\circ}$ $^{\circ}$

用量設定試験および本試験それぞれにおいて、試験に使用した被験物質調製液の最高濃度および S9 mix 調製液について無菌試験を行い、雑菌の混入の有無を確認した。

(3) 観察

各菌株の陰性対照群、被験物質処理群および陽性対照群について、プレートでの生育阻害の有無を実体顕微鏡(SZ6045TR、オリンパス光学工業株式会社)で確認するとともに、被験物質処理群について、プレートでの被験物質の析出の有無を目視確認した。次に、各菌株の陰性対照群、被験物質処理群および陽性対照群の各プレートについて、コロニーアナライザー(CA-11D、システムサイエンス株式会社)を用いて復帰変異コロニー数の計数を行った。なお、被験物質の析出がコロニーアナライザー計数に影響すると考えられるプレートについては、実体顕微鏡を用いて復帰変異コロニー数の目視計数を行った。

菌株の生育阻害の有無の判定は標準操作手順書に基づき以下の基準(0~4)で行い、 基準1以上を生育阻害有りとした。

0: 生育阻害が認められない。

微細なバックグラウンドコロニー(50 倍程度の倍率で観察可能)が培地 一面に観察され、陰性対照群のバックグラウンドコロニーとの差が認めら れない場合。

1:わずかな生育阻害が認められる。

陰性対照群に比べ、バックグラウンドコロニーが減少して個々のコロニーの大きさが大きくなっている場合。

2:中程度の生育阻害が認められる。

隆起した大きな復帰変異コロニーと、平坦で小さなバックグラウンドコロニーが並存している場合。

3:強い生育阻害が認められる。

バックグラウンドコロニーが復帰変異コロニーと同程度の大きさまで 成長し、両者の判別が困難である場合。

4: 生存菌が全く認められない。

(4) 観察結果の集計方法

各試験群の復帰変異コロニー数の平均値±標準偏差を求めた。

10. 試験結果の評価

(1) 試験系の感度確認

各菌株の陰性対照群の復帰変異コロニー数の平均値が、それぞれ試験施設の背景 データに基づく管理値の範囲内であり、かつ、各菌株の陽性対照群の復帰変異コロニー数の平均値が陰性対照群の値の 2 倍以上である場合に、試験系が適切な感度を 有しているものと判断した。

(2) 試験結果の判定基準

被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値が陰性対照群の値の 2 倍以上となり、かつ用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加が、再現性を持って認められた場合に陽性であるとした。試験結果の判定にあたって、統計学的手法は用いなかった。

成績

用量設定試験の復帰変異コロニー数の計測結果を Table 1 および 2 に、本試験の復帰変異コロニー数の計測結果を Table 3 および 4 に示す。また、用量設定試験および本試験における被験物質用量と復帰変異コロニー数の用量-反応曲線を Figure 1-1~5-2 に示す。

用量設定試験(5~5000 μg/plate)の結果、各菌株の被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値は陰性対照群の2倍未満であり、用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加もみられなかった。被験物質の析出が、各菌株の1500 μg/plate 以上の用量で観察された。生育阻害は、各菌株とも、被験物質の析出により判定が困難であった1500 μg/plate 以上の用量を除き観察されなかった。

本試験(62.5~2000 µg/plate)の結果、各菌株の被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値は陰性対照群の2倍未満であり、用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加もみられなかった。被験物質の析出が、各菌株において1000 µg/plate 以上の用量で観察された。プレートでの生育阻害は、各菌株とも、被験物質の析出により判定が困難であった2000 µg/plate の用量を除き観察されなかった。

用量設定試験および本試験いずれにおいても、各菌株の陰性対照群の復帰変異コロニー数の平均値は、全て試験施設の背景データに基づく管理値(Appendix 3)の範囲内であり、また、陽性対照群の復帰変異コロニー数の平均値は、全て陰性対照群の値の2倍以上であった。

用量設定試験および本試験いずれの無菌試験においても、被験物質調製液の最高濃度および S9 mix に雑菌の混入はみられなかった。

考 察

アゾイック CC-2 の細菌における遺伝子突然変異誘発性の有無を、S. typhimurium TA100、TA1535、TA98、TA1537 および E. coli WP2uvrA を用いる復帰突然変異試験により検討した。

用量設定試験は、被験物質の最高用量を 5000 µg/plate とし、以下公比約 3 で用量を低下させた計 7 用量の試験群で実施した。本試験は、用量設定試験の結果に基づき、被験物質の最高用量を 2000 µg/plate とし、以下公比 2 で用量を低下させた計 6 用量の試験群で実施した。

試験の結果、用量設定試験および本試験ともに、各菌株の直接法および代謝活性化法のいずれの試験系列においても、被験物質処理群の復帰変異コロニー数の平均値は陰性対照群の値の2倍未満であり、用量の増加にともなう復帰変異コロニー数の増加も認められず、当該被験物質の遺伝子突然変異誘発性は陰性であった。また、用量設定試験および本試験いずれにおいても、被験物質の析出が、各菌株における直接法および代謝活性化法の高用量(用量設定試験:1500、5000 µg/plate、本試験:1000、2000 µg/plate)で観察された。プレートでの生育阻害は、被験物質の析出により判定が困難であった各菌株における高用量を除き観察されなかった。

用量設定試験および本試験のいずれにおいても、各菌株の陰性対照群の復帰変異コロニー数の平均値は、全て試験施設の背景データに基づく管理値の範囲内であった。各菌株の陽性対照群の復帰変異コロニー数の平均値には、それぞれの陰性対照群の値と比較して 2 倍以上の明確な増加が認められた。これらの結果から、各菌株が変異原物質に対し適切な感度を有していたことが確認された。

以上のことから、アゾイック CC-2 は、当該試験条件下において試験菌株に対する遺伝子突然変異誘発性を有しないと判断した。

Table 1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvr A without metabolic activation (dose-finding test) (SR05369)

Compound	Concentration	Revertants per plate (Mean±S.D.)					
	(µg/plate)			S9 (-)			
		TA100	TA1535	WP2uvr A	TA98	TA1537	
Control a		141 , 125 134 (133±8)	11 , 9 6 (9±3)	17 , 14 12 (14±3)	22 , 12 11 (15±6)	15 , 14 17 (15±2)	
Azoic CC-2	5	129 , 131 131 (130±1)	11 , 10 10 (10±1)	9	7 , 16 10 (11±5)	10 , 14 19 (14±5)	
	15	132 , 139 140 (137±4)	10 , 5 11 (9±3)	7 , 12 12 (10±3)	12 , 18 8 (13±5)	16 , 17 19 (17±2)	
	50	114 , 135 129 (126±11)	11 , 8 8 (9±2)	8 , 22 13 (14±7)	11 , 22 17 (17±6)	13 , 26 13 (17±8)	
	150	140 , 130 138 (136±5)	7 , 12 7 (9±3)	12 , 16 13 (14±2)	19 , 11 16 (15±4)	12 , 23 14 (16±6)	
	500	137 , 131 135 (134±3)	12 , 12 10 (11±1)	22 , 8 9 (13±8)	16 , 11 13 (13±3)	16 , 17 16 (16±1)	
	1500 *	112 * , 121 * 111 * (115±6)	7 # , 10 # 6 # (8±2)	5 * , 14 * 16 * (12±6)	10 * , 9 * 10 * (10±1)	14 * , 11 * 16 * (14±3)	
	5000 *	130 * , 127 * 149 * (135±12)	14 # , 7 # 11 # (11±4)	17 * , 13 * 15 * (15±2)	13 # , 9 # 15 # (12±3)	7 * , 4 * 3 * (5±2)	
		AF-2	NaN,	AF-2	AF-2	9-AA	
Positive control	Concentration (μg/plate)	0.01	0.5	0.01	0.1	80	
	Rev./plate	759 , 843 791	286 , 289 310	100 , 93 83	332 , 341 354	405 , 306 300	
	(Mean±S.D.)	(798±42)	(295±13)	(92±9)	(342±11)	(337±59)	

a: Dimethyl sulfoxide

AF-2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide

NaN₃: Sodium azide

9-AA: 9-Aminoacridine hydrochloride hydrate

Rev.: Revertants

#: Precipitation at the end of treatment

^{*:} Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.

Table 2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvr A with metabolic activation (dose-finding test) (SR05369)

Compound	Concentration	Revertants per plate (Mean±S.D.)					
	(µg/plate)	TA 100	TA 1626	S9 (+)	T 4 0 0	T 1 1 5 2 7	
		TA100	TA1535	WP2uvr A	TA98	TA1537	
Control ^a		133 , 131 142 (135±6)	7 , 11 11 (10±2)	18 , 20 9 (16±6)	38 , 27 30 (32±6)	24 , 27 17 (23±5)	
Azoic CC-2	5	142 , 131 133 (135±6)	11 , 12 10 (11±1)	26 , 12 22 (20±7)	25 , 27 27 (26±1)	26 , 22 14 (21±6)	
	15	148 , 144 153 (148±5)	7 , 11 10 (9±2)	18 , 11 19 (16±4)	37 , 20 30 (29±9)	14 , 18 21 (18±4)	
	50	153 , 144 147 (148±5)	13 , 8 16 (12±4)	13 , 11 16 (13±3)	24 , 22 28 (25±3)	17 , 16 21 (18±3)	
	150	148 , 142 140 (143±4)	11 , 13 7 (10±3)	12 , 22 20 (18±5)	21 , 22 19 (21±2)	20 , 21 16 (19±3)	
	500	143 , 147 150 (147±4)	5 , 5 7 (6±1)	14 , 19 18 (17±3)	23 , 23 28 (25±3)	10 , 15 19 (15±5)	
	1500 *	136 * , 122 * 130 * (129±7)	5 * , 10 * 5 * (7±3)	14 * , 15 * 32 * (20±10)	17 # , 15 # 14 # (15±2)	19 * , 11 * 18 * (16±4)	
	5000 *	144 # , 134 # 150 # (143±8)	17 # , 20 # 8 # (15±6)	21 [#] , 19 [#] 17 [#] (19±2)	27 # , 23 # 21 # (24±3)	15 * , 9 * 15 * (13±3)	
		2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	
Positive control	Concentration (µg/plate)	1	2	10	0.5	2	
	Rev./plate	1454 , 1296 1533	253 , 341 297	953 , 799 840	343 , 339 343	187 , 204 228	
	(Mean±S.D.)	(1428±121)	(297±44)	(864±80)	(342±2)	(206±21)	

a: Dimethyl sulfoxide

²⁻AA: 2-Aminoanthracene

Rev.: Revertants

^{#:} Precipitation at the end of treatment

^{*:} Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.

Table 3 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvr A without metabolic activation (main test) (SR05369)

Compound	Concentration	Revertants per plate (Mean±S.D.)					
	(µg/plate)			S9 (-)			
		TA100	TA1535	WP2uvr A	TA98	TA1537	
Control ^a		124 , 134 131 (130±5)	6 , 16 6 (9±6)	8 , 19 13 (13±6)	15 , 16 14 (15±1)	20 , 11 11 (14±5)	
Azoic CC-2	62.5	137 , 140 115 (131±14)	15 , 11 10 (12±3)	20 , 15 13 (16±4)	7 , 18 13 (13±6)	17 , 20 25 (21±4)	
	125	104 , 130 149 (128±23)	6 , 8 3 (6±3)	8 , 11 19 (13±6)	11 , 6 9 (9±3)	19 , 19 25 (21±3)	
	250	138 , 130 128 (132±5)	11 , 9 8 (9±2)	9 , 9 12 (10±2)	8 , 13 12 (11±3)	12 , 25 17 (18±7)	
	500	142 , 137 108 (129±18)	14 , 11 5 (10±5)	19 , 17 16 (17±2)	14 , 11 18 (14±4)	19 , 23 19 (20±2)	
	1000	136 * , 126 * 119 * (127±9)	6 # , 4 # 10 # (7±3)	12 * , 15 * 18 * (15±3)	6 * , 12 * 13 * (10±4)	10 * , 10 * 18 * (13±5)	
	2000 *	125 # , 149 # 131 # (135±12)	10 * , 8 * 8 * (9±1)	19 * , 15 * 13 * (16±3)	12 * , 13 * 12 * (12±1)	12 * , 14 * 15 * (14±2)	
		AF-2	NaN ₃	AF-2	AF-2	9-AA	
Positive control	Concentration (µg/plate)	0.01	0.5	0.01	0.1	80	
	Rev./plate	772 , 760 801	310 , 313 322	89 , 89 94	336 , 353 317	239 , 255 291	
	(Mean±S.D.)	(778±21)	(315±6)	(91±3)	(335±18)	(262±27)	

a: Dimethyl sulfoxide

AF-2: 2-(2-Furyl)-3-(5-nitro-2-furyl)acrylamide

NaN₃: Sodium azide

9-AA: 9-Aminoacridine hydrochloride hydrate

Rev.: Revertants

#: Precipitation at the end of treatment

^{*:} Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.

Table 4 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100, TA1535, TA98, TA1537 and Escherichia coli WP2uvr A with metabolic activation (main test) (SR05369)

Compound	Concentration	Revertants per plate (Mean±S.D.)					
	(µg/plate)			S9 (+)			
		TA100	TA1535	WP2uvr A	TA98	TA1537	
Control ^a		140 , 152 139 (144±7)	7 , 8 10 (8±2)	18 , 15 16 . (16±2)	28 , 21 27 (25±4)	24 , 22 28 (25±3)	
Azoic CC-2	62.5	163 , 153 175 (164±11)	8 , 8 7 (8±1)	19 , 19 24 (21±3)	23 , 32 24 (26±5)	27 , 18 19 (21±5)	
	125	168 , 159 170 (166±6)	6 , 11 7 (8±3)	15 , 29 11 (18±9)	23 , 22 31 (25±5)	21 , 22 17 (20±3)	
	250	170 , 165 158 (164±6)	5 , 7 12 (8±4)	26 , 19 19 (21±4)	28 , 37 26 (30±6)	19 , 18 17 (18±1)	
	500	159 , 168 155 (161±7)	12 , 6 10 (9±3)	11 , 27 22 (20±8)	22 , 31 31 (28±5)	17 , 16 16 (16±1)	
	1000	167 * , 155 * 154 * (159±7)	10 * , 4 * 9 * (8±3)	22 * , 25 * 21 * (23±2)	27 * , 20 * 21 * (23±4)	14 * , 16 * 14 * (15±1)	
	2000 *	147 " , 163 " 172 " (161±13)	13 * , 6 * 13 * (11±4)	21 [#] , 13 [#] 21 [#] (18±5)	29 * , 31 * 28 * (29±2)	11 * , 12 * 9 * (11±2)	
		2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	2-AA	
Positive control	Concentration (µg/plate)	1	2	10	0.5	2	
	Rev./plate	1310 , 1346 1374	225 , 267 285	997 , 999 988	344 , 320 315	163 , 169 191	
	(Mean±S.D.)	(1343±32)	(259±31)	(995±6)	(326±16)	(174±15)	

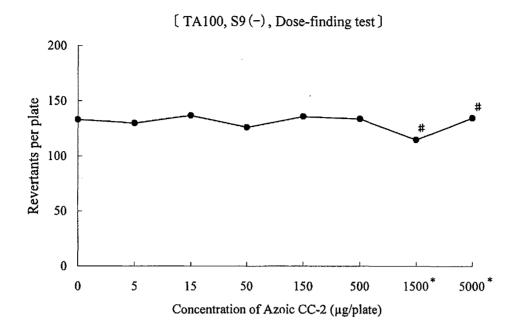
a: Dimethyl sulfoxide

Rev.: Revertants

²⁻AA: 2-Aminoanthracene

^{#:} Precipitation at the end of treatment

^{* :} Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



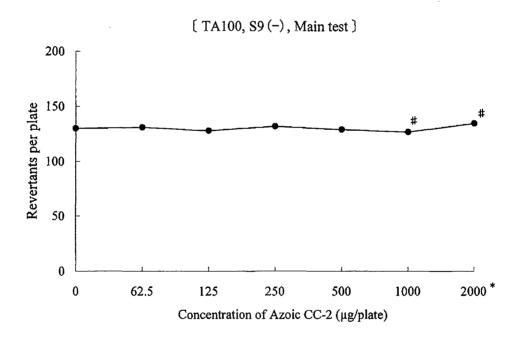
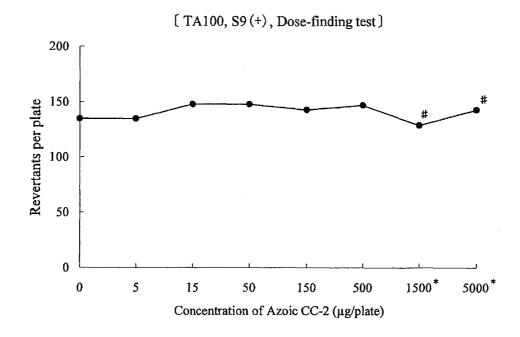


Figure 1-1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in

Salmonella typhimurium TA100 without metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



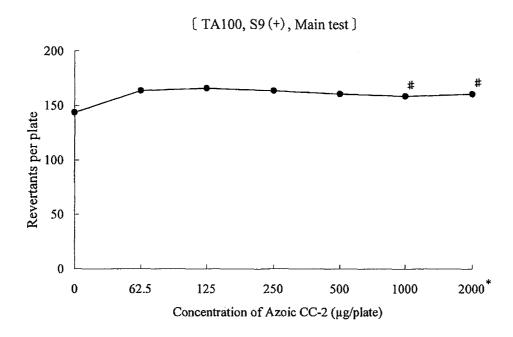
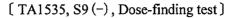
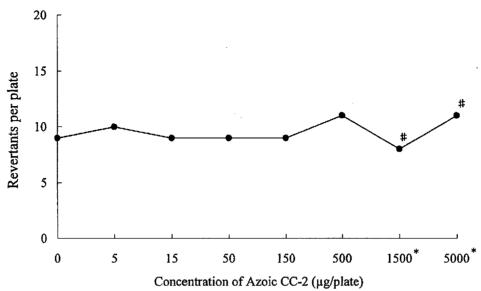


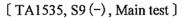
Figure 1-2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA100 with metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

#: Precipitation at the end of treatment

* :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.







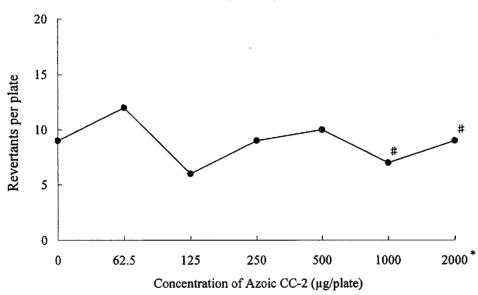
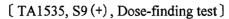
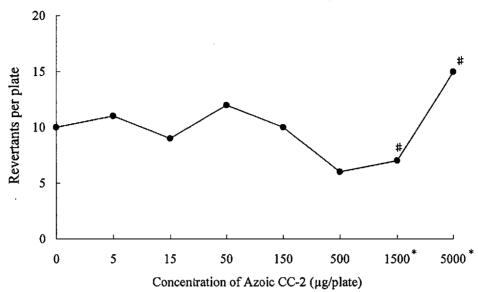
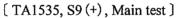


Figure 2-1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1535 without metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.







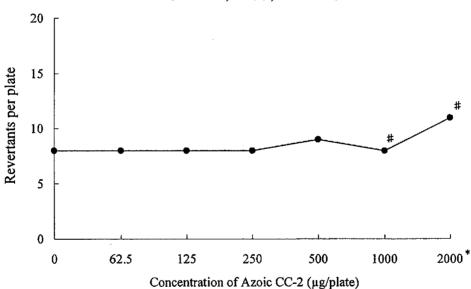
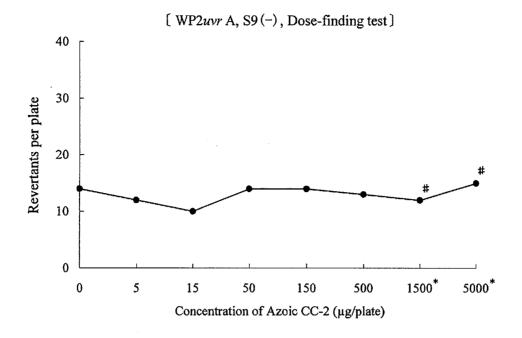


Figure 2-2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in

Salmonella typhimurium TA1535 with metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



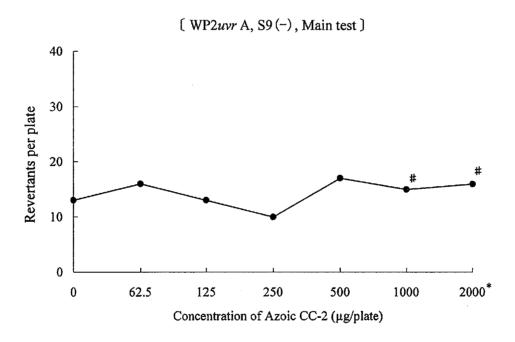
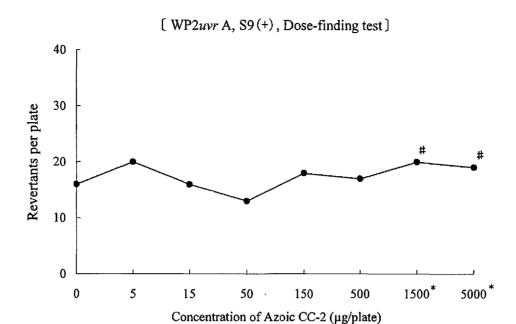


Figure 3-1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in *Escherichia coli* WP2uvr A without metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

#: Precipitation at the end of treatment

* :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



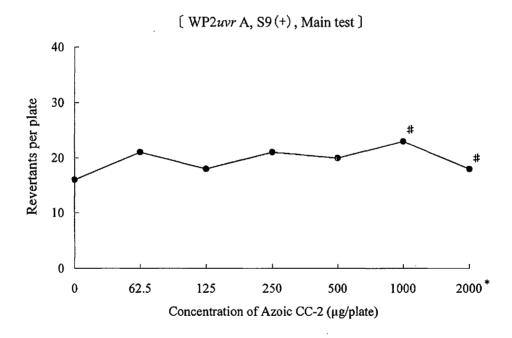
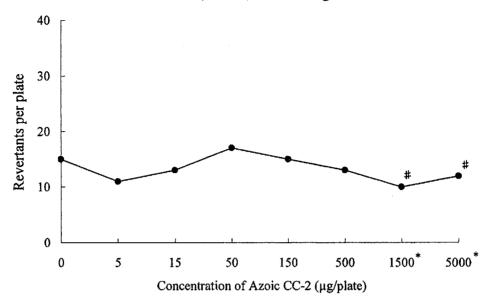


Figure 3-2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in

Escherichia coli WP2uvr A with metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.





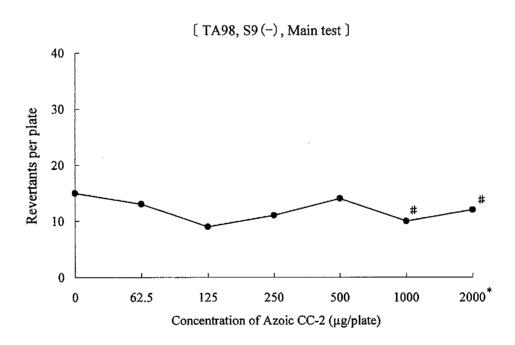
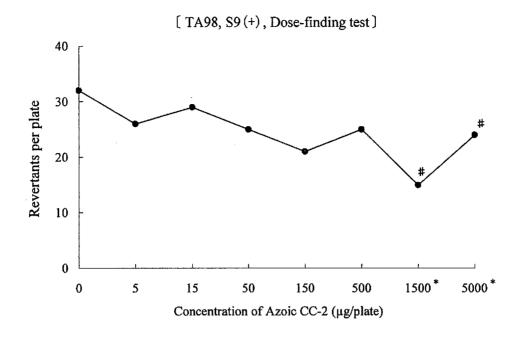


Figure 4-1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in

Salmonella typhimurium TA98 without metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



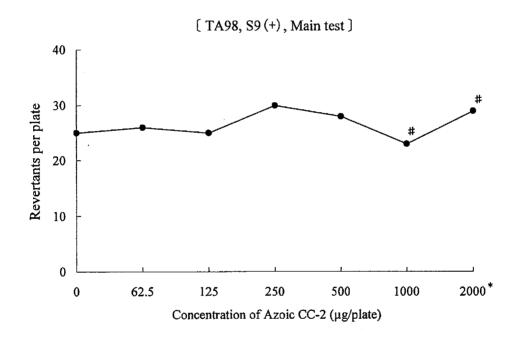
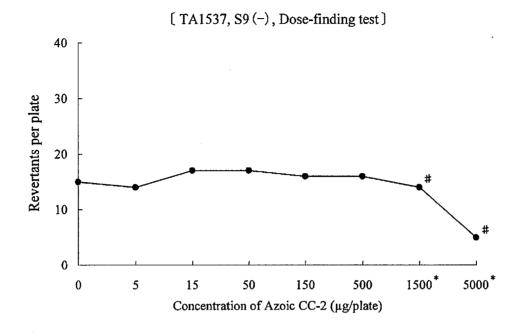


Figure 4-2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in

Salmonella typhimurium TA98 with metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.



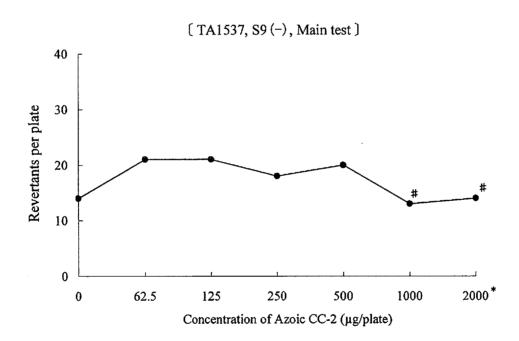
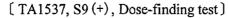
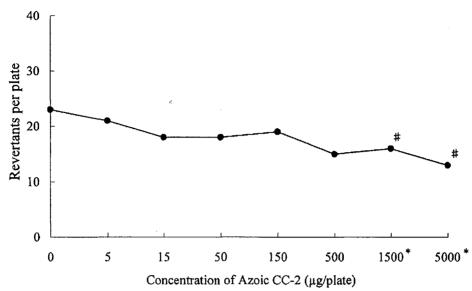
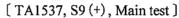


Figure 5-1 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1537 without metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.







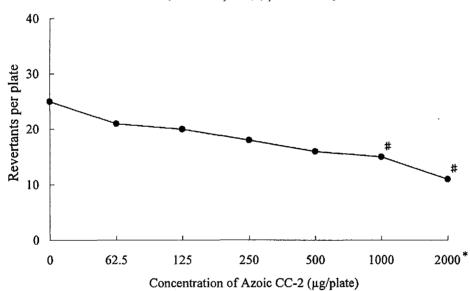


Figure 5-2 Reverse mutation test of Azoic CC-2 in Salmonella typhimurium TA1537 with metabolic activation (dose-response curves) (SR05369)

- #: Precipitation at the end of treatment
- * :Growth inhibition was not determined because of dense precipitation at the end of treatment.